学校番号	３２８

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	政治経済	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	最新政治・経済　新訂版（実教出版）						
副教材等	最新図説　政経（浜島書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

今、あなたのまわり、世界では、環境、格差、貧困、差別や自由の抑圧など現代的課題といわれるさまざまな課題があります。しかもこれらは、人間自身が作り出したものです。ゆえに、人間自身の叡智によって乗り切っていくことしかできず、平和の構築は学問の使命です。あなた自身やまわりの人たちにも決して無関係な話ではありません。教室や教科書にとどまらず、現在進行形で学びましょう。幅広い知識を得て、メディアリテラシーを身につけ、自分自身で考える習慣を持ち、判断し、行動する社会人となりましょう。そしてともに協力し、人々が安全に安心して暮らせる未来をめざしましょう。そのために、まずは一日一回、政治経済社会のニュースをチェックしましょう。自分と社会との関係を普段から意識し、まわりの人とも話題にしてみましょう。

２　学習の到達目標

１）政治経済の知識を身につけ、社会の成り立ちやルールについて理解し、説明することができる。
２）さまざまな現代的課題について、政治・経済・社会の観点から理解し、説明することができる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	自分が社会の一員であることを意識し、普段から社会について問題意識を持っている。	あたえられたテーマの材料から、自身の考えをまとめ、表現する能力を身につけている。	あたえられた数字やグラフ、表などから、知識を応用して何かを読み取れるか。	世の中の事象を理解するための、政治経済の基本的な知識を身につけている。
評価方法	・授業取組への積極性 ・時事問題に関する小テストへの取組み	・バディワークなど参加型学習での表現 ・提出プリントの記述 ・定期考査	・考査の資料問題 計算、推測問題	・定期考査 ・ニュース小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期中間	現代の政治	・民主政治の基本原理と課題 ・日本国憲法の成立と基本原理 ・さまざまな基本的人権 ・日本の政治制度と政治参加	○			○	a:民主政治、人権問題に関心がある。 b:民主政治、人権問題の課題について思考し、表現できる。 c:判例など資料から読み取りができる。 d:政治の仕組みの基本的知識を身につけている。	・授業態度 ・提出ワークシート ・考査 ・小テスト
1学期期末	現代の経済（第1章）	・資本主義社会の成立発展 ・現代の資本主義 ・価格の自動調節機構と政府の財政政策 ・経済成長・景気変動	○		○	○	a:経済の動きに関心がある。 b:資本主義の特徴と課題について、思考、表現できる。 c:需給曲線からの読み取り、ＧＤＰや経済成長率の計算が出来る。 d:資本主義社会の経済のしくみについて、基本的知識を身につけている。	・授業態度 ・提出ワークシート ・考査 ・小テスト
2学期中間	現代の経済(第2章1～6)	・日本経済の歩みと現状、様々な問題を理解し考える。	○	○		○	a:戦後の日本の経済の歩みについて興味を持つ。 b:日本の経済の諸問題について考察し、表現できる。 c:資料から、日本経済の現状について読みとれる。 d:日本経済の歩みについて、基本的知識を理解している。	・授業態度 ・提出ワークシート ・考査 ・小テスト
2学期期末	現代の経済(第2章7～8)	・日本の労働問題とその課題 ・日本の社会保障制度とその課題	○	○		○	a:労働問題や社会保障制度について関心がある。 b:労働問題について考察し、自分の考えを述べることができる。 c: グラフや新聞資料から日本の労働問題の課題を読み取ることができる。 d:労働法など働くルールの基本的知識を理解している	・授業態度 ・提出ワークシート ・考査 ・小テスト

3学期	現代社会の諸課題	・国際社会の現代的課題と日本の役割について考える。	○	○	○		a: 国際社会の課題と日本の役割について関心がある。 b:現代的課題について自分で考え、表現が出来る。 c:グラフから現代的課題の現状を読み取ることができる。 d:現代的課題についての基本的知識を身につけている。	・授業態度 ・提出ワークシート ・考査 ・小テスト

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。